

令和4年度岩手県立美術館協議会議事録

1 日 時	令和4年12月15日(木) 13:30~15:40
2 場 所	岩手県立美術館 会議室
3 出 席 委 員	合川常美、及川亜希子、及川貴也、大衡彩織、梶田佐知子、加村なつえ、清川義彦、佐藤あい子、菅井雅之、樋下照男、山口真樹(以上11名)
4 欠 席 委 員	伊藤真紀子、菅しのぶ、日野美和、柳田陽一(以上4名)
5 (県側出席者) 生涯学習文化財課	久慈孝総括課長、菊池剛生涯学習担当課長、猿ヶ澤茂樹主査、山崎美咲主事
6 文化振興事業団	平野信二事務局長兼総務部長
7 美 術 館	藁谷収館長、小笠原誠企画参事兼副館長、千田貴浩総務課長、吉田尊子学芸普及課長、加藤俊明上席専門学芸員、濱淵真弓上席専門学芸員、土谷文子主任専門学芸調査員、久保田幸恵主任主査、杉田友視主査

1 開 会	事務局より、委員15名のうち11名の出席により、岩手県立美術館管理運営規則第9条第2項に規定する委員の半数以上の出席という要件を満たしている旨報告された。
2 委 員 紹 介	(出席者名簿により自己紹介)
3 職 員 紹 介	(出席者名簿により出席職員を紹介)
4 館 長 挨 拶	藁谷館長より挨拶があった。(挨拶内容省略)
5 議 長 就 任	岩手県立美術館管理運営規則第8条第2項の規定により、議長は会長が務めることとされていることから、以後の議事は、樋下会長が進行した。
6 議 事 (1) 説明事項 説明事項 ア 【質疑応答】	「岩手県立美術館の概要について」(資料1) 事務局から資料1により説明を行った。(説明内容省略) (特になし)
説明事項 イ 【質疑応答】	「令和3年度美術館協議会における主な意見・要望とその対応状況について」(資料2) 事務局から資料2により説明を行った。(説明内容省略) (特になし)
説明事項 ウ 【質疑応答】	「令和4年度事業実施状況について」(資料3) 事務局から資料3により説明を行った。(説明内容省略) (特になし)
説明事項 エ 【質疑応答】	「観覧者数の推移について」(資料4) 事務局から資料4により説明を行った。(説明内容省略) (特になし)
説明事項オ・カ 【質疑応答】	「令和5年度事業実施計画について」(資料5)及び「令和5年度企画展概要(案)について」(資料6) 事務局から資料5と6により説明を行った。(説明内容省略)

◆ 及川亜希子委員	来年度予定の自主企画展の「不安の時代を生きる」について、分かる範囲で目玉になるような作品や、どのような画家が登場するのか教えていただきたい。
◆ 美術館	岩手の大正から昭和、戦後にかけてのいろいろな活動の話になる。五味清吉という画家が岩手の画壇では中心となっていた。また、社会との関係では、松本竣介の作品は欠かせない。竣介は戦争に向かっていく時代の中で自己主張した作家なので、作品の中にもいろいろなメッセージが読み取れると思う。竣介が中心になると考えている。
◆ 樋下委員	フィンランドと岩手には類似性があると説明をいただいたが、フィンランドと岩手で交流などはあるのか。
◆ 美術館	フィンランドは、何か東北のようだ、岩手みたいだと、行ったことのある人からは言われる。実際に岩手の現代作家も、フィンランドに行って制作をして、向こうで発表するなど、交流があるようだ。フィンランドと岩手は、気候や風土が似ていることから、特に親和性が高い。また工業技術センターではフィンランドのデザイナーを招いて技術の向上を図るなど、長らく交流があったと聞いている。 また、フィンランドのデザイナーが岩手に来てデザインをし、それを製品として売り出している iwate mo というブランドを今回取り上げ、日本だけではなく、岩手との交流も取り上げられる展覧会になっている。
◆ 大衡委員	企画展「みちのく いとしい仏たち」の展示の核となる、下地になる研究をされている先生がいるという話だが、どの方なのか教えていただきたい。
◆ 美術館	今回の監修者は弘前大学名誉教授の須藤弘敏先生という方で、青森県の仏教美術を研究されている。須藤先生が、青森、岩手の県北をずっとフィールドワークされたその成果を示す展覧会で、内容で「いとしい仏たち」という名称になった。江戸時代、東北の厳しい風土の中で生きる庶民が、日々のささやかな祈りを託していたカミさまやホトケさまの御像は、その土地の大工や僧らによって作られた、非常に素朴で親しみのある造形が特徴である。 今回の出品の目玉は、岩手県葛巻町の宝積寺というお寺にある聖観音6体の御像と、八幡平市の山奥の神社に祀られた山神像である。造形的にはちょっとびっくりするような、稚拙でかわいらしい感じのするもの。
◆ 及川亜希子委員	企画展の選定について昨年も質問があったかと思うが、自主事業を除き年間4つの企画展を開催するとあるが、基本的に例年提案のあった企画から選ぶものなのか、自らこれをぜひ引っ張ってきたいという形で企画をするものがあるのか、流れと、提案いただいている企画展というのは何点ぐらいあるものなのか教えていただきたい。
◆ 美術館	展覧会の企画は、大手の新聞社やテレビ局の事業部や、企画会社などから、年間を通じてたくさんのオファーが寄せられている。また、ある一つのテーマに従って、同じ関心を持つ学芸員が集まり勉強会を開き、それが成果として展覧会となるものもある。成り立ちはさまざまある。展覧会も内容によって異なる。油絵のような堅牢な作品の展覧会であれば、1年を超えて何館かを巡回する企画となるし、日本画のような脆弱なものだと1会場で1か月ぐらいしか展示ができないため、会期や巡回スケジュールに制限が出てくる。いろいろな条件やタイミングがある中で、自主企画とアートフェスタ以外の残りの本数の中で、なるべくいろいろなジャンルのものをやりたいと考えている。私どものコレクション展が岩手ゆかりの作家の作品ということで、本当に岩手の作家の作品だけなので、それ以外にいろいろな美術があることを示せるものとして、企画展はバラエティーに富んだ内容にしたいと思っている。

◆山口委員	4番目の高畑勲展だが、ほかの開催日数が大体1か月くらいのところ、こちらは2か月と長い。巡回展ということだが、備考欄にどこを回ってくるのか書いていない。前回はジブリ展が最後ということで、長蛇の列と駐車場の問題が起きて、多分順番次第ではまた同じように近隣に迷惑がかかるような状況になると思う。順番を教えてください。
◆美術館	2019年に東京国立近代美術館で立ち上がり、その後岡山県、福岡県、さらに新潟県と回り、今年度に台湾で展覧会が巡回となっている。来年度は、当館の前後も巡回館はあるが、当館で最後ということではない。 混雑や駐車場のことも想定しており、駐車場の借り上げや交通整理の方々などの予算も盛り込んだ予算要求をしている。ただ、ジブリの大博覧会とは違い、中身はアニメーションの歴史をたどっていくという内容になる。じっくり見たり読んだりするようなどころが多いと思う。
(2) 協議事項 【質疑応答】	「岩手県立美術館の運営について」 事務局から情報提供は特になし。
◆議長	美術館の運営全般について、各委員の皆さん方からの忌憚のない意見、感想でもいいし、今後の在り方についてでもよろしいですし、ふだん見て感じたことでもよろしいですので、忌憚のない意見を伺いたいと思います。
◆合川委員	ナイトミュージアムの内容を理解していないが、閉館後に何か招待しているのか。 私たちのホテルは駅と美術館とすごく距離が近いので、宿泊とセットのイベントをお客様に販売といった何かお手伝いできるものができればいいと思う。
◆美術館	ナイトミュージアムは、夜の閉館時間を通常6時までのものを9時まで延長して開館していたもの。ナイトミュージアムのときは、目玉のイベントとしてコンサートを開催し、お客様にコンサートと美術館、展覧会を夜遅くまで楽しんでいただくということで事業を実施していた。 コロナが始まってからは、コンサートは諸事情で事業は実施していない。来年度に関しては予算の事情から、ナイトミュージアムは今のところ見送る方向で考えている
◆及川亜希子委員	県立美術館というと、何となく敷居が高いイメージがある。私も仕事で関わる前は、足を運ぶ機会というのは、よっぽど見たい企画展がないと来なかったもので、アピールの工夫などを常に考えていただきたいと思う。企画展のたくさんオファーが来ているということだが、タイミングとかあると思うので、皆さんの知識を生かし、自ら今これが見たいという企画展をぜひ引っ張ってこられるような体制もできればいいと思う。弊社も事業部を持っていて、すごくそれが難しいことだというのは承知しているが、その気概を持って館も頑張っていっていただきたいと思う。
◆及川貴也委員	この会議に出るのは初めて。我々青年と言われる年代ではあるが、美術と触れる機会というのがない。主に我々はまちづくりやひとづくりという部分に重きを置いてはいるが、こういったものに触れる機会というのがなかなかないので、何かしら触れ合う、コラボできるようなものがあれば、もっと興味関心を持つ人が増えると思いつつも、知る機会というのがないので、どう美術を広めていくかという部分に関して、考えていかなければならないと思う。今どうやって外部に対して発信しているのか教えてください。

◆ 美術館	<p>今、美術館でも展覧会のPRに関しては、特に企画展が中心となる。県内の主要なテレビ局と新聞局にご協力いただき、展覧会のCMを作り、放送している。また、今各テレビ局では、土曜日の朝の情報番組にも力を入れ、いろいろな個性を出されているが、その中継枠を確保し、リポーターや芸人さんなどが美術館へ来て、その芸人さんたちの声を通じて、一般の方により興味を持って楽しんで来てもらえるように工夫して構成し、広報に取り組んでいるところである。</p>
◆ 及川貴也委員	<p>すばらしいことだと思う。ただ、20代、30代というのは、なかなかテレビを見る機会が少なくなっている中で、ネットという部分が大きく情報を得る部分になってきている。我々も広報に毎回苦労はするが、SNS関係をどう駆使して展開していくのかというのは今の課題だと思うので、考えてほしいと思う。</p>
◆ 大衡委員	<p>この美術館のコレクション展はとにかくすばらしい。企画をしている担当の方の顔が見えるような本当にすばらしいものだと思う。</p> <p>美術館の方にぜひお願いしたいのは、ここにいる委員の人を何とか美術館のファンに仕立て上げるような努力をしてほしい。チラシをまくよとか、何かのときに紹介するというような協力のもらい方だけではなくて、ぴったりくっついて、何かを説明したり、コレクション展を見てもらう機会を持って、この方たちがファンになってくれるとファンがファンを呼んで、もっともっと美術館のファンが増えると思うので、そんな工夫をしてほしいと思う。</p>
◆ 梶田委員	<p>私も結構中央公園が好きで散歩に来るので、ふらっと寄ったりもするが、企画展のときにレストランで企画展メニューがあるが、企画展を思いだしながら味や目で見て料理を楽しんでいる。ぜひ来た方たちにも広めてほしい。</p> <p>私はよく宮城県の美術館に足を運ぶが、家族で自転車に来て、ふらっと中に入って見て、夏だとサンダル履きで来ている子供たちなど、本当にそういう方たちが多いので、岩手県の美術館もそうなると思う。子供のときにテレビで見た絵と、美術の本で見たものが実際に岩手の美術館で見られるというのがすごく心に響くのではないかな。</p> <p>バスで送迎して子供たちに美術鑑賞してもらおう事業があり、イオンで御飯を食べたらそっこのほうがよかったということもある。修学旅行の中の1こまに入れるとか、県内外の学校に声をかけていくのも一つかなと私はこの資料を見たときに思った。</p>
◆ 加村委員	<p>先ほども美術館のファンが増えたらいいというお話があったが、それで言うと、まさに私はオープンしたときからここの美術館のファン。展示はほとんど全部、事情があって来られなかったとき以外は多分全部見ていると思う。展示はもちろんだが、これまでも興味がある分野のものは講演会や関連のイベントも参加している。去年の秋くらいにこの委員のお話をいただいてからは1年間、来られる限りの講演会には参加した。あまり自分は詳しくないから、ちょっと難しいかもしれないと思うような講演会も聞いてみると面白く、自分が知らない分野だからこそ学ぶことしかなくて、知ることはすごく面白いし、喜びで、それを聞いた後にまた展示を見ると、分かる分からないで言うと自分の感性でしかないが、やっぱり違うものなので、新しい感動があって、その瞬間というのはすごくいいと思う。もっと皆さんに、こういう楽しみ方をいっぱいしてほしいと思うし、きっかけをどうやってそこに結びつけるかというのは、宣伝の仕方など難しいこともあると思うが、とにかくここに来ればそういう場がある。結構な頻度で週末ごとにいろんなイベントがあると思うが、常にそういう場をたくさん設けてくれてありがたいと思いますというのをなかなか直接言う機会がないので、この場でお伝えしたい。</p>

◆ 平野事務局長兼 総務部長	<p>美術館長が話したが美術館は昨年20年を迎えたが、文化振興事業団も間もなく40年を迎える。皆様から様々運営に関するご意見をいただくと、やはり我々中の者だけでは気づかないことも気づかせていただく、大変ありがたい貴重な機会だと思い今日も参加させていただいた。</p> <p>話は全く別になるが、平泉のガイダンスセンターが昨年オープンし、文化振興事業団がそのガイダンス事業を請け負っている。今日は美術館の話だが、今後のガイダンスセンターの運営に関しての参考になるお話を聞けて大変ありがたいと思う。これからも文化振興事業団をよろしく願いたい。</p>
◆ 菊池生涯学習担 当課長	<p>委員さんから県民目線でという話があったので、その辺は十分に考えながら美術館と連携して今後の方針を考えていきたいと思う。引き続きよろしく願いたい。</p>
◆ 久慈総括課長	<p>県民目線を大事にしながら、今後の美術館の運営について主管課として美術館と連携を図り、県民目線での楽しめるような施設になるような取組と一緒に考えていきたい。</p>
◆ 藁谷館長	<p>美術館がいろんな形で中身が充実していくような、そういったことを一番に考えている。そういった意味では、頑張っって啓蒙していくので、ご協力をお願いしたいと思う。</p>
◆ 小笠原副館長	<p>今年度は、幅広い世代が美術館に来て、そこから広がっていってくればいいなということで、大友監督を呼んだ。担当が2年がかりで、ようやくアポを取って来ていただいたという経緯がある。来年度以降もそういった幅広い世代がこの美術館に足を運んでくれるような、そういったPRに取り組んでいければと思っている。</p> <p>いずれいいものがあるので、皆さんに楽しんでいただけるように頑張っていきたい。</p>
◆ 吉田学芸普及課 長	<p>私は、開館前からこちらの美術館の準備に携わってきた。20年という時間は本当にあっという間だったが、この先の20年、あるいは30年、50年という先の岩手県立美術館がどうあったらいいかということを考えていくと、今なかなか理解を得るのは難しいかもしれないが、岩手の美術の次の核を打ち立てて、次の世代にバトンタッチしたいと思う。皆様のいろんなご意見をいただき、事業の難しさを感じるが、県立美術館があっってよかったと県民に思っていただけのようにみんな一生懸命やっているので、今後ともご助言、ご指導いただければと思う。</p>
◆ 千田総務課長	<p>美術館は展示事業というのが一つの大きな柱、それからあと教育普及というもう一つの柱がある。さらに、それらの魅力を高めるいろんなイベントも併せて実施しているので、それらを踏まえてトータル的にどの世代からも美術館が純粋に愛される、楽しんでいただけるというような、そこを目指していきたいと思う。</p> <p>いろいろとご意見いただいた広報活動についても、なかなかこれだというものはないが、だからといって何もしないのではなくて、常にチャレンジの気持ちを持ちながら、ひょっとしたらその中でいろんなヒントが出てくるかと思うので、それを大いに生かしながら、引き続き県民の皆さんに愛される美術館として取り組んでいきたいと思う。</p>
◆ 山口委員	<p>今窓の奥のほうに丘が見えるが、丘の向こう側の再開発が進んでいて、ドッグカフェとかドッグランなど、ファミリー層もいっぱい集まるような状況になっている。せつかく近くまで来てくれるお客様を美術館側に引きつけるような野外での展示というのはできないのかなと思う。これから暑くなってくると日陰を求めたり、寒いときは建物の中に入ってこようかなとかと足を美術館に向けるようにできないか。とても立派な建物がゆえに敷居が高く見えてしまうのでは。何かうまく引き寄せられればと思う。</p> <p>タブレットでの学習やインターネットを使った学習というのは知っているものしか調べられない。知らないものを発見できるというのは、やっぱり美術館だったり、図書館だっ</p>

	たり、実際行って感じる部分だと思うので、どうか学生たちをもっと引き込めるような何かがあったらいいと思う。
◆ 菅井委員	<p>学校現場でも美術の教科はもちろん、美術が好きで様々な絵を描いたり、携わる子供たちもたくさんいる。リアルな作品を見て、子供たちも非常に影響を受けるのではないのかなということも私も常々感じているところ。</p> <p>そして、今日は県立美術館のスタッフの皆様の熱い思いを私も知ることができた。熱い思いを持って県民のためにご尽力いただいていることに、改めて敬意を表したいと思う。</p>
◆ 佐藤委員	<p>小中合わせて造形教育連盟の会長をしているが、幼稚園、小学校、中学校の先生方の美術に関する講座を開いたときに、県立美術館の先生方に出前講座をしていただいた。そのとき作ったものを学校の子供たちが見て、これやってみたいと言っていたので、美術の展示だけではなくて教育活動にも本当に力をいただき、ありがたいと思っている。</p> <p>10月30日に大友啓史監督と吉田学芸普及課長の講演に来たが、身近なアート、西洋のアートなどのお話で、大友さんというのはすごいのだな、いろんなことを知っている方なのだなと思いつつながら、吉田学芸員の適切なアドバイスで、いろんな観点で作品の見方を教えていただきありがたかった。家族も連れて来たが、ワークショップにも参加し作った段ボールのお財布を孫も大変喜んで、すごく大事にしている。</p>
◆ 清川委員	<p>不来方高校に芸術学系がある。音楽の活躍が目立っているが、実は美術・工芸コースの人数が非常に増えていて、取り組もうとしている学生、生徒は増えてきている。本校の生徒に限らず、こちらの常設展、高校生は無料で入れるということで、非常にありがたく思っており、その点については引き続きお願いしたい。</p> <p>それから、本校では美術・工芸コースが年1回の見学をし、非常に勉強させていただいて助かっている。</p> <p>最後に、今小中高生は1人1台端末を持っていて、オンラインの授業、それから様々な情報が瞬時に入るようになっているが、やっぱり現場に足を運んで身近なもので触れ合うというのも絶対おろそかにしてはいけない。どっちかに走るのではなく、双方いいものを利用するというの大事なこと、これからの時代かなと思うので、そういう意味では現場でいいものに触れ合うというところで、ここに足を運んでということが大きなテーマになっていくのかなと思う。</p>
◆ 議長	<p>3時頃、美術館のラジオが流れる。館長やいろんな方たちがここの宣伝をしているが、すごく楽しみにしている。いい宣伝だなと思いつつながら聞いていた。</p> <p>企画展については全部見ていた。江口寿史展は写真撮影がオーケーで、若者はネットにより来て見ている。若い人たちが多かったのはネットを使った宣伝の効果によるところが随分大きいのだろうと思った。ラジオの宣伝も含めて、いっぱい宣伝して欲しい。</p>
(3) その他	<p>「その他」について (特になし)</p>
(4) 閉会 ◆ 樋下委員(会長)	<p>以上をもって本日の協議を終了する。 (終了)</p>